

アウクスブルク滞在記

濱中 信真

出国当日

台風の影響により、色々なトラブルがありました。なんとか出国できました。久しぶりのヨーロッパということで不安もありましたが、とにかく楽しみが強く、終始わくわくしており、今後のことを考えると20時間のフライトも乗り越えられました。

1日目

着いて、すぐに市役所訪問、市長挨拶というハードスケジュールでしたが、市役所のあまりの綺麗さに疲れが吹き飛びました。黄金の間があまりにもすばらしくて今自分は本当に市役所にいるのかという錯覚に見舞われましたが、Dr. グリーブル市長をはじめ市の方々の歓迎を受けやはり市役所だったと再認識しました。その日は長浜市の使節団、アウクスブルクの使節団、ホストファミリーとの対面と多くの出会いがあり、とにかく濃厚な一日でした。

2日目

個人的に一番楽しみなスポットのノイシュヴァンシュタイン城に行きました。自分の頭に思い描いている「お城」がそのまま出てきました。まだ技術が進歩していない時代にこれだけの大きい建物を建築できたのだと、感動しました。道中のお昼休憩で白いソーセージを初めて食べましたが、あまりの美味しさにドイツにずっと住んでいたいと思う程でした。



3日目

将来教師を目指す私にとって非常に興味深かった小学校訪問をしました。私自身、オーストラリアでの日本語教師の経験があるため、日本も合わせて3カ国目の小学校訪問となりました。子供達の遊ぶ姿はとりわけどの国も同じだなという印象でした。少し印象的だったのが、ドイツの人々が持つ「日本の学校は厳しすぎる」というイメージです。私が今までドイツ人の方々に持っていた印象は、日本人と同様「規律正しい真面目な性格」であったため、人格形成に大きな役割を施す学校教育は類似したものであると考えていたのですが、実際は違っていました。違わないものといえば、子供の可愛さはやはり万国共通で、終始微笑みが止まりませんでした。

この日は夜に前年度に尼崎市を訪れた青年使節団の方々がパーティを開いてくださり、カラオケをしたり、ドイツの伝統的なケーキ作りをしました。忙しい中、団員のためにプログラムを作ってくださいと、とても嬉しかったです。



4 日目

朝は大聖堂に集合で、そのまま中を見学しましたが、やはりノイシュヴァンシュタイン城の時と同様で「どうやって建築しているのだろう」というシンプルな疑問が思い浮かびました。この研修で一番多く感じた疑問だろうと思います。

夜には送別会があり、日本で作った尼崎のプロモーションビデオの発表や福笑いなどを行いました。皆すごく楽しんでいただいて、初めは不安で仕方なく、準備も大変だった分、心地よい達成感に包まれました。

5 日目

ホストファミリーと過ごす 1 日でまずはお土産を買うためアウクスブルクのショッピングセンターに連れて行っていただきました。とてつもない量の HARIBO を買った後、ホストブラザーにとてつもない量のソーセージを買ってもらい、家に帰り昼食をとり

ました。あまりのソーセージの美味しさに再び、ドイツにずっと住んでいたいと思いました。午後にはホストブラザーに飛行場横のミニゴルフに連れて行ってもらい、天気、景色ともに最高のロケーションの中、ダブルスコアで圧勝しました。帰りにアウトバーン（一部速度制限ありの区間あり）で 210km のスピードを体験させられました。全て含めて良い経験でした。

6 日目

世界遺産に申請中の「水の塔」やアウクスブルクの植物園などに行きました。植物園では日本庭園もあり、アウクスブルク市に日本文化がかなり根付いていることを認識しました。夜はホストファミリーと RUMMY というゲームに興じ、明日にはお別れかと寂しい気持ちを抱えながら全勝してしまい、少し気まずい雰囲気の中眠りにつきました。

7 日目

午前中にホストファミリーとのお別れでした。1 週間程度の滞在でしたが、期間は短くともやはり別れは悲しいものでした。帰りの飛行機の中では改めて多くの人々にお世話になったと感じながら、例え本人に直接じゃなくても、全く関係のない誰かにでも良いから「おもてなし」をしていこうと強く心に誓いました。

この研修を通じて

改めて自分は多くの人々に助けられていると感じました。尼崎市役所の皆様、同期の皆様、翻訳してくださった人々、ホストファミリー、向こうでお世話になった人々、皆様がいなければ、言葉も通じないドイツ

でそのような貴重な体験はできなかつたと思います。できる最大の恩返しといえば「この経験を誰かの役にたつように還元すること」だと思います。何らかの形でこの経験を人々の為に活かせるように過ごしていきたいと思います。お世話になった方々へ、本当にありがとうございました。